

第2節 本計画で想定する災害

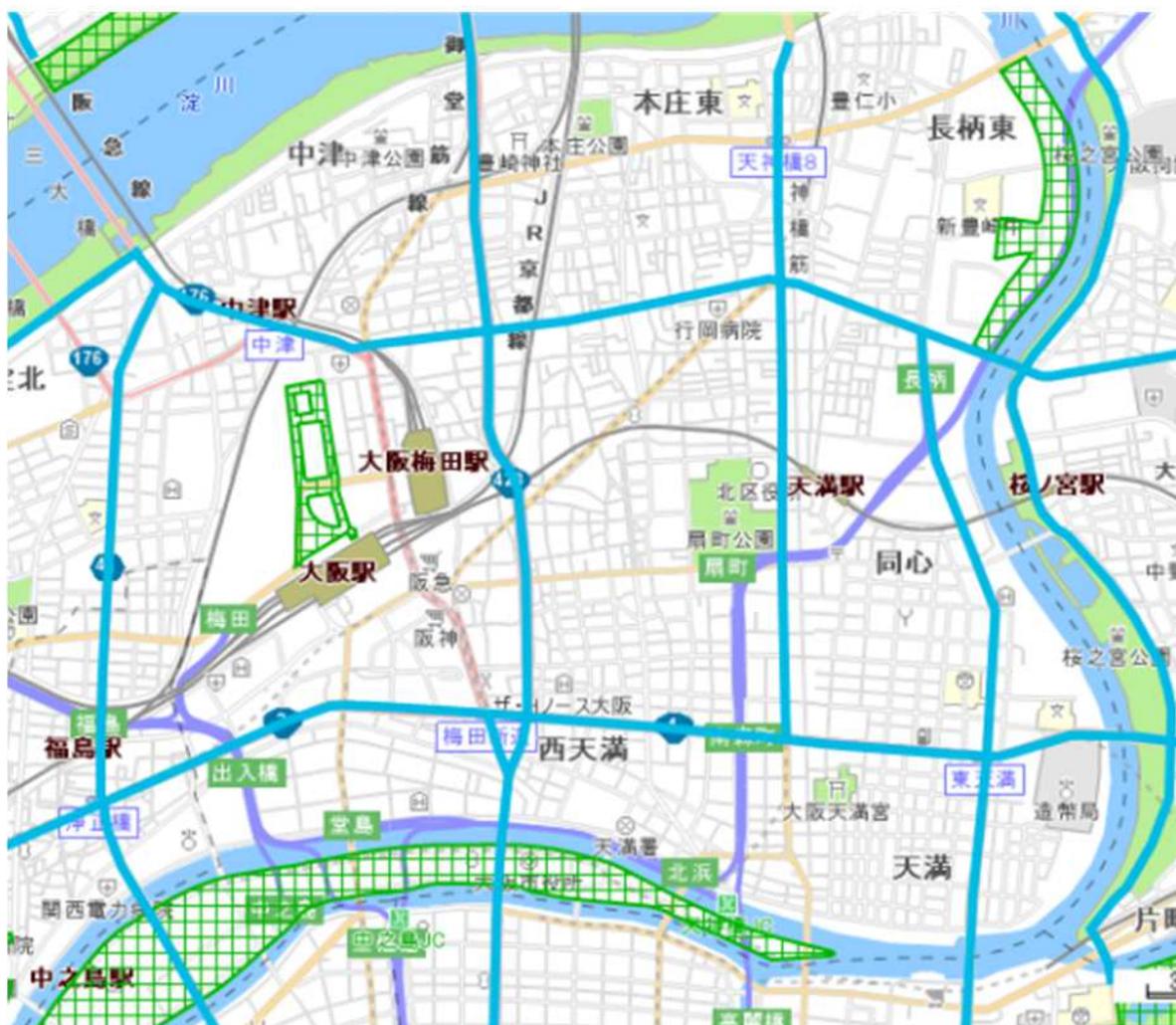
1. 火災-もっとも身近な災害です！

近年、建築物の不燃化や消防体制の充実等が進み、延焼に至らず消火されていますが、北区では多くの木造密集市街地があり、季節や風速等によっては大規模火災が発生する危険性を含んでいます。

特に、大災害時には消火活動が行き届かない可能性もあり大規模火災の危険性も想定されます。

また、狭い道路（幅4m未満）が多く残る地域は、災害時の避難経路を日ごろから確認しておく必要があります。

大阪市では、広域避難場所や広域避難場所までの安全な道路をあらかじめ避難路として指定しています。



マップナビ大阪

凡例  広域避難場所  避難路

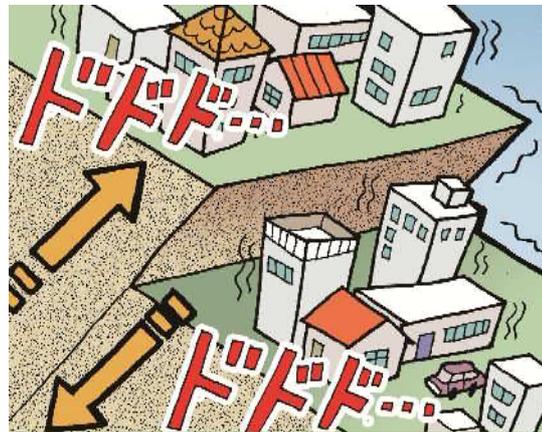
2. 地震・活断層の位置-北区でも最大震度の揺れ！津波襲来のおそれが！

(1) 活断層型地震

大阪にはいくつもの活断層が存在し、特に上町断層においては北区内で震度7クラスの地震を引き起こし、多くの家屋倒壊、火災、交通網・通信網の寸断等が想定されています。

平成7年(1995年)1月17日に発生した、阪神・淡路大震災や平成28年(2016年)4月14日に発生した熊本地震は活断層型地震であり、家屋や公共施設の倒壊等甚大な被害が発生しました。

本市では、震災等により家屋の全半壊等で生活継続が困難となった被災者を一時的に受け入れる災害時避難所を指定しています。



活断層の位置

震 度	状 況
震度4	<ul style="list-style-type: none"> ●ほとんどの人が驚く ●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる
震度5弱	<ul style="list-style-type: none"> ●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる ●棚にある食器類や本が落ちることがある
震度5強	<ul style="list-style-type: none"> ●物につかまらなると歩くことが難しい ●固定していない家具が倒れることがある
震度6弱	<ul style="list-style-type: none"> ●立っていることが困難になる ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある
震度6強	<ul style="list-style-type: none"> ●はわないと動くことができない。飛ばされることもある ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる
震度7	<ul style="list-style-type: none"> ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では 倒れるものが多くなる

地震による揺れと被害

< 巻末資料 >

液状化予測図・震度分布図

(2) 海溝型地震

平成 23 年（2011 年）3 月 11 日に発生した東日本大震災は、海溝型地震であり、津波の恐ろしさについて世界中に衝撃を与えました。

本市においても南海トラフ巨大地震が発生すると北区内で震度 6 弱の揺れによる家屋倒壊や津波の浸水被害による影響で交通網・通信網の寸断、地下街や低層階の浸水・水没等が想定されています。

津波は地震発生後約 110 分で本市住之江区に到達し、概ね海拔ゼロメートル地帯である区の西側半分で浸水被害が想定されていることから水が引かない状況も懸念されます。

浸水による人的被害を軽減するために、当区では指定緊急避難場所（津波避難ビル・水害時避難ビル）の指定に向け、ビル所有者等に協力を求め指定に取り組んでいます。



東南海・南海地震は、100年から150年の周期でマグニチュード8クラスの巨大地震が発生しており、今世紀の前半にも発生するといわれています。



津波避難ビル
ブルーゼタワー



津波避難ビル
ステッカー



津波避難ビル募集HP

< 巻末資料 >
液状化予測図・震度分布図・水害ハザードマップ

3. 河川氾濫（豪雨災害）-淀川氾濫により、最大 10mの浸水被害が！

集中豪雨等により河川氾濫が発生すると区の大部分が浸水・水没等が想定され、当区では最大 10m の浸水被害が想定されています。河川で観測される水位を基に判断し、避難情報を発令する水位に達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合は、本市より避難情報を発令し区民へお知らせします。

当区では、水害により自宅等での滞在に危険が予測される住民を一時的に受け入れる指定緊急避難場所（津波避難ビル・水害時避難ビル）の指定に向け、ビル所有者等に協力を求め指定に取り組んでいます。



平成25年台風18号により淀川の河川公園等が水没しました。（H25.9.16）

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保※1
＜警戒レベル4までに必ず避難！＞			
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示（注）
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報 （気象庁）
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 （気象庁）

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない
 ※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである
 （注）避難指示は、令和3年の災対法改正以前の避難勧告のタイミングで発令する

＜巻末資料＞
水害ハザードマップ

4. 高潮被害（巨大台風の接近により高潮による浸水は最大10m）

高潮は、台風や発達した低気圧が通過する際に海面がいつもより異常に高くなる現象です。気圧の低下による海面の吸い上げや、強風で海水が海岸に吹き寄せられる吹き寄せ、沖から陸に吹く風によって波も高くなる高波等が要因です。海面の急激な上昇で、海水が堤防や防潮堤を超えて、住宅地が浸水する恐れがあります。



台風が北上しながら、大阪府の西側を通過するコースは特に警戒が必要です。台風に吹き込む風は反時計回りのため、進行方向に対して右側の地域で強風が吹きやすくなります。



大阪湾に警戒が高まる台風進路



左門橋鉄橋（陸閘）（平成30年9月21号台風）
提供：西大阪治水事務所

5 . 内水氾濫-進む市街化は都市型災害を引き起こす！

都市部の地表はアスファルトやコンクリートで覆われているため、雨水は地下に浸透しません。そのため、局地的大雨により下水道処理が追いつかなければ、内水氾濫を引き起こします。内水氾濫が起こるとマンホールから水が溢れ出てきたり、道路が冠水したり、地下街や低層階の浸水・水没等が生じます。



内水氾濫：茶屋町の浸水被害情報
(平成25年8月)
提供：市民



福岡市営地下鉄博多駅への浸水被害状況
(平成15年8月)
提供：国土交通省九州地方整備局

< 巻末資料 >
水害ハザードマップ

6 . その他の不測の事態-異常気象等何が起こるかわからない！日ごろから備えを！

(1) 大規模な積雪

近年では、太平洋側においても積雪が観測され、道路交通等に大きな影響を及ぼしています。北区は主要な道路が集まっており都市施設が集積しているため、積雪による影響を顕著に受けま
す。突発的な降雪は交通機能のマヒにつながり帰宅困難者の発生をまねく可能性があります。
降雪・積雪時は不要不急の外出を避けて、車の利用を控えなければなりません。

(2) 大規模な停電

災害が発生すると、大規模な停電が発生する可能性があります。

また、夏の電力需給ひっ迫により、電力会社において計画的な停電が行われる可能性があります。
す。

本市では、万が一、計画停電の実施又は大規模停電が発生した場合に、区役所及び本市各部局や
関係機関と、被害等の情報の把握や対応を的確に行い、迅速な情報提供を行うため、「大阪市計画
停電等対応マニュアル」を策定しています。

不測の事態に備えて、節電の取組み、電力が供給されない場合を想定した事前の備えが重要です。